

ため池の生きもの展

期間：2001年11月22日～12月21日 場所：関空交流館

内容：貝塚市のため池周辺に生息する動植物の紹介

ため池は、水田を灌漑するための水を確保することを目的として造られた池で、必要に応じて貯水と取水のできる施設を備えたものです。その歴史は古く、稲作が中国や朝鮮半島から伝来した弥生時代にさかのぼります。雨の少ない瀬戸内海沿岸（大阪を含む）の地域は、特にため池密度が高く、全国のため池の約半数が集中します。ため池という水域の特徴は、湖と比べ規模は小さい止水環境で、水深は1～4m程度、また、人の管理によって（水田に水を引く）水位変動がある点です。

そして、このため池および周辺環境を舞台に、様々な動植物が暮らしています。岸边から沖にかけては緩やかな傾斜があり、水深の変化に対応して様々な種類の水草が生育します。浅い水域には抽水植物がみられ、さらに深い水域には浮葉植物が育ち、光が底まで届く所には沈水植物が生育します。これら水草帯は、魚、エビ、貝、水生昆虫など様々な動物の生活の場としての役割を果たしています。トンボ、トビケラ、ユスリカなど多くの水生昆虫は成虫期を陸上で過ごすため、岸边の樹木や草原を必要としますし、ミズカマキリ、ガムシ、ゲンゴロウなどのように、ため池と水田を移動して生活するものもいます。このように多くの水生動物は発育に伴って生息場所を移動して暮らすため、ため池につながる陸域も様々な環境であることが、多様な生物群集を育むこととなります。

しかし、近年の都市化の進展に伴う宅地開発などにより、ため池は埋め立てられ、急激に減少しています。その結果、そこに生活している多くの生きものは絶滅に追いやられているのが実情です。



展示会場



貝塚市のため池の紹介



ため池周辺の動物の紹介



ため池周辺の植物の紹介



標本に見入る子ども



展示会場（関空交流館）

(担当：山田 浩二・岩崎 拓)